

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	－	－	－
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・暖かくなるに従って来客数は増加しており、客の雰囲気も良い。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・例年、良くなる時期であるが、今年も卒業式シーズンが近づき、送別祝いの花や春の催し物の発表会等の花の注文が入り出した。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・店頭売上が前年実績を上回り、紳士、婦人衣料も前年実績を確保した。しかし、リビング用品や子ども関連商品は前年割れとなる。買物に慎重な姿勢が続いているものの、催事は物産催事や健康食品が好調に推移している。全店催事もDMを送ることで、来客数が増え、関心のある商品、催事には敏感に反応するようになっている。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・1月は前年並みであった客単価が、2月に入り前年大幅プラスで推移している。下旬に入り、気温の上昇に伴って、春物衣料の動きが良く、売上を底上げしている。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・競合店の状況をもみても百貨店で前年比が100%、駅隣接する商業施設が同108%、郊外商業施設が同108%となっている。総合的に大型店については前年比100%を超えている状況である。特に百貨店は食料品の駅弁大会が前年比113%と伸びており、食品は前年比107.4%と突出して高い。衣料品の動きはあまり良くないが、総じて前年比100%を超えている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・今月に入り、来客数が前年比で増加に転じている。また消費者も節約疲れからか、単価の高い物が動き出している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数は横ばい状態であるが、客単価及び1品単価も上がっており、取引回数も前年比約103%と上がっている。かなり良くなってきている状況である。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・企業業績の改善に伴い、若干ではあるが、個人消費が活発になっている。また、ここ数年の節約疲れから、客は消費に回っている。寒波の影響から、冬物衣料を中心に売れている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比109.5%で推移して。ここ3か月は110%前後で来客数が増えている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数が前年並みに近づいている。また販売点数も前年を上回るようになっている。客の購買動向もバレンタインやランドセル等ギフトマーケットにおいて、今までより少しおしゃれな単価の高い商品が動くようになり、社会行事関連の動きが良くなっている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店の売上は前年比108.7%、コンビニエンスストアが同104.2%、ローカルスーパーで同102.7%とすべて前年を上回っている。前年がかなり悪かったこともあるが、傾向としてはやや伸びている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・売上は安定していないが、やや上向いている。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・比較的高額な卒業式用のスーツが売れている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・決算時期を迎え、受注台数が少しずつ伸びている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車受注台数が前年実績は下回るものの、計画通りに推移している。中古車やサービスの売上も期末の繁忙期を迎え、計画通りの売上が確保されている。
		自動車備品販売店（従業員）	お客様の様子	・家電のエコポイントや自動車のエコカー購入補助金の影響も落ち着いており、地上放送のデジタル化を前に地上デジタルチューナーの動きが徐々に出てきている。
	高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・2月は例年、来客数が減る傾向だが、本年は例外であり、増えている。	
	その他飲食〔居酒屋〕（店長）	来客数の動き	・九州新幹線の全線開業により、地域はとて盛り上がっている。毎日の宣伝効果が出ており、来客数の状況もやや良い。	
	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・寒さが和らぎ、客が動きやすくなったのにあわせて、旧正月により韓国、台湾等の海外客が増えている。	

	都市型ホテル (副支配人)	来客数の動き	・九州新幹線の全線開業や駅ビル新規オープンに伴う個人客の動きが非常に活発になっている。
	通信会社(業務担当)	販売量の動き	・2月中旬より、スマートフォンや格安機種を中心に新規契約、取替えとも増加し、全体の販売数では前年とほぼ同じ実績となっている。
	設計事務所(所長)	販売量の動き	・民間からの相談数が多くなっている。
変わらない	商店街(代表者)	販売量の動き	・景気そのものは大きく変わらないが、例年2月に急に落ち込む売上が、今年はあまり落ち込まなかった。消費動向が少し上向きになっている。
	商店街(代表者)	販売量の動き	・好転する兆しはないが、これ以上悪くもならない。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街の景気自体はあまり良くないが、空き店舗に出店があり、明るい兆しも見受けられる。
	一般小売店 [茶](販売・事務)	単価の動き	・寒さも和らぎ動きやすい時期ではあるが、人の通りは少ない。景気回復には時間がかかりそうであり、消費者の購入単価も相変わらず低い。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・以前よりは必需品以外の商品を購入する客が増えたが、衣料品で明確なトレンドがないため、消費に力強さがない。
	百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・購買行動は、変わらず慎重である。価格と価値の合っている物を買う。ただ、価値が高ければ少々価格が高くても購入する傾向が出てきている。
	百貨店(営業企画担当)	販売量の動き	・今月は、平年より気温も高く、婦人衣料を中心に好調である。来客数も前年実績を超えて推移している。一方で高額品の販売低迷が続く、前年の実績を確保できない状況が続く。
	百貨店(企画)	販売量の動き	・冬物処分時期で重衣料が好調に推移している。バレンタインデー商戦の客単価は下がったが、販売個数が増え、ほぼ前年並みの売上を確保している。一部のカテゴリでは明るい兆しもあったが、全体の売上は3か月前と同様に前年を若干下回って推移しており、状況に変化はない。
	百貨店(業務担当)	お客様の様子	・今月は、中旬より春らしい天候となり、春物の出だしは順調であった。ただ、最寄品の動きはそこそこあるものの、買い回り品の動きはいまだに弱い。子ども手当の先行きについて心配する客も多く、財布のひもを固くする客が増える。
	スーパー(経営者)	販売量の動き	・政治や世界情勢の不安定さ、先行き不透明さから客は夢や目標を失っている。消費意欲もまったく感じられない。
	スーパー(総務担当)	お客様の様子	・衣料品や住居用品の冬物処分等への反応は良かったものの、春物商品の動きが若干鈍い。消費者の価格にシビアな状況が続いている。
	スーパー(経理担当)	販売量の動き	・1～2月の寒さで葉物野菜等が値上がり、鳥インフルエンザによる鶏肉の数量確保難等のマイナス要因があり、総じて買上点数が減少している。
	スーパー(業務担当)	単価の動き	・今月最大のイベントであるバレンタイン商戦の結果をみると、来客数は例年並みであるが、客単価、1品単価共に著しく低下傾向にある。特に1,000～2,000円台の商品は大幅に売上数量が低下している。一方で単価100～300円前後の物が良く売れており、ギフト関連の出費はできる限り抑えようという消費動向が強い。
	コンビニ(経営者)	販売量の動き	・たばこの値上げによる商品単価の上昇という要因から客単価は上がっているが、他の商品については依然として前年を下回っている。
衣料品専門店 (総務担当)	お客様の様子	・依然として客の商品選別の目は厳しく、価格に対しても非常にシビアであり、状況が好転しているとは考えられない。	
乗用車販売店 (販売担当)	販売量の動き	・販売量の動きは、前年比で約20%の減少となっている。これは前年のエコカー購入補助金制度による需要の先食いの結果である。また購入価格帯については、中価格帯、低価格帯の比率が高くなっており、購買力そのものがかなり下がっている。	
住関連専門店 (経営者)	お客様の様子	・毎月のキャンペーンは少ないながら横ばいで推移している。学習機のシーズンであるが、全体的に来客数は少ない一方、安い机よりこだわりの机が動いている。良い物を時間をかけてゆっくり品定めをする客が増えており、客の接客にかかる時間が多くなった。	

その他専門店 [書籍] (店 長)	販売量の動き	・業界全体が安定的な傾向を示している。特に九州地区はその傾向が強い。	
その他専門店 [ガソリンスタ ンド] (統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は安定しており、販売状況は前年とほぼ変わらない。暖房用の灯油の小売価格も前年並みであり、客は節約する様子もなく、必要量を購入している。ただし、高額商品、サービスについては熟慮したうえで、購入の可否を決定している。	
その他小売の動 向を把握できる 者 [ショッピング センター] (支配人)	来客数の動き	・少し回復の兆しがあったが、寒波の影響か以前の状態に戻っている。	
その他小売の動 向を把握できる 者 [土産卸売] (従業員)	販売量の動き	・この1か月の間、1日も前年の売上を上回った日がない。厳しい状況となっている。	
高級レストラン (従業員)	来客数の動き	・以前は多かった50～60代の客が、コーヒーを飲みに来ない。	
一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・例年2月末になると学生や卒業生の客が多かったが、今年は前年ほど学生や卒業生はみられない。	
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・今月単月では、宿泊、宴会、レストランの各部門は好調に推移している。	
タクシー運転手	来客数の動き	・昼間は観光やゴルフ客が増え、動きは良い。反対に夜の繁華街は人出が全くなく、売上の足を引っ張っている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今月はイベントの開催があり、日も良かったせいかタクシー利用客が多かった。しかし全体的に見ると、来客は少ない。	
タクシー運転手	お客様の様子	・月初めは鳥インフルエンザ、降灰による影響で、昼夜共に人が動かず、タクシー利用は少なかった。月末になって雨が降り、また暖かくなって少しずつ人が動き出し、タクシーの利用も少しずつ増えた。	
通信会社 (管理 担当)	それ以外	・資金繰りの厳しい状況が続いている。	
通信会社 (営業 担当)	それ以外	・前年の口蹄疫、今年は鳥インフルエンザ、火山の噴火等により、多くの企業にマイナスの影響を与えている。景気は非常に悪い。	
通信会社 (総務 担当)	お客様の様子	・とにかく寒かったという天候要因もあり、個人消費は停滞気味である。少しは持ち直し効果が現れているというものの、実感には程遠いのが現状である。雇用やそれに伴う所得が下げ止まったまま推移しており、景気低迷に直結している。	
通信会社 (企画 担当)	販売量の動き	・ブロードバンド市場の飽和感があり、販売促進策を強化しても販売量が伸びない。	
ゴルフ場 (従業 員)	単価の動き	・依然として景気は厳しい状況であった。特にゴルフプレー料金の面で、プレー費が安いイベントの日に客が集まる状況である。その状況下で土日の集客が少しずつ上向いている。公務員、市役所、団体職員等の客が少しずつ増えている。	
ゴルフ場 (支配 人)	来客数の動き	・冬期の客足が落ちる時期であり、依然としてデフレ感が漂う経済環境であり、活気が出る状況にはない。特に極寒の異常気象が来場者数の減少に与えた影響は大きい。	
美容室 (店長)	お客様の様子	・客や周りの人の話を聞いても、景気が良くなったとは聞かない。店でも現状維持をようやく保っている状況である。	
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・大きな物件はずっと動きはない。しかし、駅前等の場所を指定するものや、何百坪等規模を指定した問い合わせはある。地元ではない、東京、大阪、海外からの問い合わせがあるが、金額的にも折り合わないので成約には至っていない。	
やや悪く なっている	商店街 (代表 者)	お客様の様子	・毎日の来客数はあまり変わらないが、客単価はかなり低くなっている。商店街近くにはスーパーが多く、タイムサービス時に客が流れるので、商店街の閉店時間が早くなっている。
	商店街 (代表 者)	来客数の動き	・中高年の婦人服を販売しているが、寒さが厳しく、雪の影響もあり、来客数が減少している。
	商店街 (代表 者)	来客数の動き	・販売数も少なく、人も来ないため、悪い状況となっている。また、商店街の中には閉店するところも出ており、景気はとても悪い。

商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の来街者数は減少しており、客単価も下がっている状況で、個人消費は非常に冷え切っている。	
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・最近は少し暖かくなってきたが、懐は寒いままである。来客数も減少したままである。貝類や酢味噌和え等季節物が少し出だしたので、いくらか良くなる。	
百貨店（営業担当）	単価の動き	・2月はクリアランス時期ということで、あまり単価の高い物は売れない。しかし今年は後半にかけて天候が少し良かったこともあり、春物の定価商品の動きが良かった。これは前年にないことであり、やや良くなっている。ただ、まだまだ不安材料はあるので、単月だけでは判断しかねる部分がある。	
百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・口蹄疫の発生以降、鳥インフルエンザ、そして火山の噴火と相まって、中心街への客の流入が非常に減っている。ライバル店の百貨店が撤退し、売場維持が厳しい。	
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・景気の先行きが不透明であり、雇用環境の改善もないこと等から、消費は厳しい状況で推移している。来客数の大きな変化はないものの、購買動機が改善しておらず、販売点数は減少し、衝動買い等が減っている。	
コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・競合店の出店で売上が大幅に減少している。また今まで来店していた客も少しでも安い商品を求め、スーパー等へ移っているようで、厳しい状況が続いている。	
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・エコポイント関連商品の反動減の影響が、予想以上に大きい。	
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・2月は例年客が少ないが、今年もやはり動きは鈍かった。併せて、鶏インフルエンザの発生により市役所等から入っていた予約の宴会がなくなり、非常に痛手を被った。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・日々閑散とした営業が続く、特に週末営業の落ち込みがひどい。	
観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・九州新幹線全線開業が間近となり、気分的には明るくなっているが、プライダルの落ち込みが大きく、全体的にはやや低迷している。	
旅行代理店（従業員）	単価の動き	・予約数はほぼ前年並みであるが、行き先は韓国や台湾、九州内等近場が多く、1人単価が下落している。火山の噴火により鹿児島・宮崎からの出発の取り止めが増えた。	
美容室（経営者）	販売量の動き	・1月までだんだん良くなる感じがあったが、前年並みかそれ以下になっている。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・ずっと景気が悪かったが、3月に卒業式等の行事があるので、最近良い結果が出ている。	
美容室（店長）	来客数の動き	・今年、異常な寒波のせいで来客数が減少した。	
その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・我々の業種に限らず、消費の低下、客単価の下落、販売数の減少は変わらない。	
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	販売量の動き	・先月は大幅な顧客減、売上減となったが、今月も暦日として日数が短く、売上の増加が全く期待できない。	
悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・寒さの影響で青果物の入荷量がそれほど多くなかったが、相場が上がりきれない。販売量が少なく、需要も少ないので、なかなか厳しい状況である。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客が買物に対しシビアになっており、よほど欲しい物か、必要な物しか購入しない。ただし、家電製品は、薄型テレビ等がよく売れている。
	乗用車販売店（代表）	お客様の様子	・買換えの周期が伸びており、厳しい状況となっている。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・中心街の人通りが少なくなっている。特に飲食店ほどの店も客が少なく、多いのは若者向けの居酒屋である。そういった店はそこそこ人が入っているようであるが、回転は悪いようだ。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・市内では降灰の影響がほとんどないにもかかわらず、火山の噴火による降灰のニュース影響から、一部、スポーツ団体によるキャンプのキャンセルが発生した。また、個人客の宿泊やゴルフを控える傾向もみられる。

企業 動向 関連	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・民間のマンション建設や大型商業施設等では、保留になっていた物件が再び動き出している。福岡では駅ビルがオープンするが、この物件のお陰で福岡では職人が不足する事態となった。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体関連設備の部品加工の受注が増えている。
		金融業（営業）	取引先の様子	・取引先の製造業の受注が安定している。先月、今月は稼働日数が少なく、十分な売上は確保できていないが、来月以降の受注を確保しており、増員を計画しているところもある。ただし、大手製造業が求人を増やしており、人材の確保が容易ではない様子である。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・今月は日数が少ないため、数字として大きく上がっているわけではないが、どこかの売上も好調であり、街中も人出が増えている。九州新幹線的全線開業の影響で街自体が若干活気に満ちている。
	その他サービス業【物品リース】（役員）	受注量や販売量の動き	・企業の設備投資は、このところの小口案件が堅調に推移している。さらに、5,000万円以上の大口案件の引合も、医療機器、半導体関連を中心に少しずつ出始めている。	
変わらない	農林水産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・例年2月は厳しい月ではあるが、今年は特に鳥インフルエンザの影響もあり、売上が伸びない。消費低迷により、粗利は前年を大きく落ち込んでいる。前年の年末特需利益をこの2か月で全部かき出しても足りない状況である。	
	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・全く変わらない。受注量は例年と変わらない。取引先の様子も変わらず、何とかしのいでいるようである。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・2月は例年、ギフトやプレミアム商品等の受注があるが、今年は大変厳しい状態で、受注量が少ない。また、消費動向も量ではなく質で選ぶ状態に変わっている。量産メーカーでは苦しい状態で、各社教育訓練を受けてしのいでいる現状である。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事量が少ないうえに、受注価格が安い。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の動きは、非常に不透明なところもあるが、安定した状況が続いている。全般的に今の動向としては良い。	
	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕事量は確保できる見通しが立っており、ますますである。ただ、受注価格が非常に気になる。3～6月くらいまでは資材価格が高騰すると言われており、これが受注価格の下落と同時に発生すると両面の影響を受けることになる。収益が出ない現状をどのようにして解決するかが問題であるが、コストダウンするか、あるいは生産性を上げるかというところで、人材の育成を強化することで解決したい。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・客先の生産台数の様子から、変わらない状況である。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・九州という地域性もあるのか、関東や関西に比べて荷動きが良くない。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・得意先の荷物の状況をみると、預かっている荷物の荷動きがあまり良くない。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・継続する景気の低迷により、中小企業全般に利益が確保出来ていない状況が続いている。資金需要も、赤字補てんのための借入が大半である。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・貸出金の資金需要に大きな変化が見られない。年率トレンドはプラスで推移しているが、おう盛な資金需要は感じられない。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注や問い合わせの件数に変化がみられない。また、取引先に状況を聞いても、大きな変化がないようである。	
	やや悪く なっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原材料価格の高騰や天候不順による不作の影響から商品原価は上がった上、在庫が少なく、積極的な販売ができていない。
建設業（社員）		受注量や販売量の動き	・年度末に差しかかり、手持ち工事も完成に近づきつつある。前年度末は補正予算も少しあり、今の時期、少ないながらも、積算や見積りに追われていた。しかし今年度は、積算見積する物件がない。	

	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は輸入量が大幅に減少した。それに伴い出荷量も減っており、受注自体も減っている。	
	金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・一部の業種において販売量、受注量が低迷し、資金繰りに困窮し始めている企業が増えている。	
	経営コンサルタント	それ以外	・周囲でコンサルティング関係の会社を整理する動きがあるなど、景気は下向きである。	
悪く なっている	経営コンサルタント	受注価格や販売 価格の動き	・酒屋飯店は何をしらいいか分らない状況である。業態変化が起こっている。赤字閉店も続いている。	
	その他サービス 業〔設計事務 所〕（代表取締 役）	競争相手の様子	・市町村の建設関係や調査計画の業務を行う建設コンサルタントは、市町村の発注量が激減することにより、入札時の価格競争が激しく、実費程度の入札価格で応札する場合がある。コンサルタントによっては、人員を削減し、狭い事務所に移転する等規模縮小しているところもある。	
雇用 関連	良く なっている	新聞社〔求人 広告〕（担当者）	求人数の動き	・新聞の求人広告は前年比180%と非常に好調である。医療・福祉を中心に業種的にも広がりを見せている。
	やや良く なっている	求人情報誌製 作会社（編集者）	周辺企業の様子	・九州新幹線の全面開通に伴うイベントを各業界団体で企画しており、駅周辺は活性化されている。また、地下鉄の終着駅に新しい商業施設が4月にオープンすることから、こちらの求人も活発に動いている。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人数は4,268人と前年同月比17.3%の増加、有効求人数は9,802人と同206.8%の増加となっており、建設業、製造業、情報通信業、専門技術サービス業、医療福祉等多くの分野で確実に伸びている。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・新規求人、有効求人共に前年同月比で大幅な増加が続いており、企業の求人採用状況が回復している。また、求職者数は昨年12月以降、前年同月比で減少に転じており、有効求人倍率も0.6倍台まで回復した。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・当所における新規求人数は、前年同月比で増加している。昨年8月から6か月連続で前年同月比プラスとなっており、企業間で業況に差があるものの、改善傾向がみられる。
		学校〔専門学 校〕（就職担 当）	周辺企業の様子	・現時点で具体的な求人はないが、来校して説明をする企業が前年より多い。また、採用についても確約ではないが、前向きに検討する企業が増えている。
変わらない	人材派遣会社 （社員）	周辺企業の様子	・ホテル関係に人材を派遣しているが、新年度の取引更新の際、協賛金や業務協力を強く要望される等、条件提示が多い。その具合により発注率も決めるようで、こちらとしては増益にはならない。	
	人材派遣会社 （社員）	周辺企業の様子	・求人数が少なく、年度末の需要も思ったよりも少なかった。業績が悪く、契約終了の企業も数社出てきた。	
	新聞社〔求人 広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・九州新幹線が全線開業するため、流通関連や娯楽施設等の経済効果が期待される。ただ開業効果は限定的で、景気は上向ている気がするものの、周辺地域や身の回りの企業への波及は少ない。	
	職業安定所（所 長）	求人数の動き	・新規求人数は昨年3月以降、すべて前年同月比で増加しており、今年1月は19%増である。求人倍率も低迷期から脱した感がある。鳥インフルエンザと火山の噴火が雇用に与える影響は、現在のところ、食肉加工、鶏卵、温泉施設等の一部にあるものの、大きく雇用調整が行われる状況までには至っていない。	
	民間職業紹介機 関（社員）	求人数の動き	・求人数は、季節的な販売促進業務や期間限定業務で派遣依頼が増加している。しかし、年度替りには収まる傾向があり、変わらない。	
	学校〔大学〕 （就職担当者）	採用者数の動き	・今年3月卒業予定者に対する内定、採用状況は、依然として厳しく、改善傾向はみられない。また、来年3月卒業予定者に対する採用方針に関する人事担当者との情報交換でも、採用数を増加させるという話題はあまり聞かれない。	
	やや悪く なっている	人材派遣会社 （社員）	求人数の動き	・例年、2月は4月の年度改編に向けて派遣需要が顕在化するが、今年は人員計画が不透明で労働者派遣法の厳格運用を受けて、派遣利用の見送りが多い。
民間職業紹介機 関（支店長）		それ以外	・客の業種により差はあるが、人材需要が発生するタイミングが前年よりも遅い。加えてニーズにマッチングする人材でなければ成約に至らないケースが多い。	
悪く なっている	—	—	—	